

教科名	国語	週時間数	4 時間	学年	I 年
使用教科書 副教材等	教科書 「現代の国語Ⅰ」三省堂/「新しい書写」東京書籍 副教材 「国語スイッチⅠ」正進社/ 「新しい文法ワーク」明治図書				

国語科 の目標	・社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができる。 ・筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができる。 ・言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合うことができる。	
評価について		
観点	つきたい力	方法
知識・技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができる。	・ノート、授業プリントの記述 ・授業中の発言、様子 ・国語カードの記述 (授業・単元のふりかえり) ・定期テストや漢字テスト等
思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにできる。	・ノート、授業プリントの記述 ・授業中の発言、様子 ・国語カードの記述 (授業・単元のふりかえり) ・定期テストや漢字テスト等
主体的に 学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを確かなものにしたりしながら、言葉がもつ価値に気付こうとしているとともに、進んで読書をし、言葉を適切に使おうとしている。	・ノート、授業プリントの記述 ・授業中の発言、様子 ・国語カードの記述 (授業・単元のふりかえり) ・提出物
学習方法	・言葉での表現の仕方、語彙による意味の微妙な違いなどに着目し、教科書やプリントなどの内容を理解し、使えるようになろう。 ・積極的に自分から考え、仲間の意見をよく聴き、考えを深めることを心がけよう。 ・便覧や機器による資料を収集し、伝え学び合おう。 ・仲間に尋ねるなど丁寧にに関わり、互いに学びあう関係を大切にしよう。 ・配布されたプリント等を整理し、その都度ノートに貼り、復習につとめよう。 ・漢字は漢字テストの機会に何度も書いて練習し、文法の重要事項を覚え、資料で調べ、知識を定着させよう。 ・宿題は出された日にやっておく習慣をつけよう。 ・教科書を何度も読み、ワークを使いながら、基本となる重点ポイントを理解しよう。 ・読書や日記などに普段から取り組み、読み書きに親しもう。	

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	詩	朝のリレー	・詩の構成や表現の効果について考えながら、情景を想像して音読する。
		話す・聞く	グループディスカッション	・話題や展開にそって話し合いをつなげるための方法を理解し活用する。
	5	物語	竜	・描写をもとに三太郎の心情の変化を捉える。
		言葉発見① 文法のまど① 説明	音声のしくみとはたらき 言葉の単位・文節の関係 ペンギンの防寒着 クジラの飲み水	・擬態語などの表現の工夫に着目して読み、表現の効果について考える。
	6	漢字のしくみ①	活字と手書き文字・画数・筆順	・音声のはたらきやしくみについて理解を深める。
		書く	レポート	・言葉の単位・文節の関係について理解する。
	7	ことば発見② 物語	話し言葉と書き言葉 空中ブランコ乗りのキキ	・説明文の基本構造を理解する。
2	9	随筆 漢字のしくみ② 説明 言葉発見③ 話す・聞く	字のない葉書 部首と成り立ち 玄関扉 接続する語句・指示する語句 スピーチ	・段落と段落の関係に着目しながら、文章の展開を捉え、内容を読み取る。
	10	解説	月を思う心	・活字と手書き文字・画数・筆順について理解を深める。
		古文	竹取物語	・調べて集めた情報を整理して伝えたい内容を明確にする。
		表現プラザ	変わり身の上話	・レポートの構成を理解し、表・グラフ・イラストなどを効果的に用いて書く。
	11	漢文 漢字のしくみ③ 図表 記録	故事成語ー矛盾 漢字の音と訓 防災に関するデータ 「みんなでいるから大丈夫」の怖さ	・話し言葉と書き言葉の違いについて理解を深める。
		書く	行事案内リーフレット	・描写をもとに、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などを捉える。
	12	文法の窓② 詩 言葉発見④ 書く	単語の類別・品詞 それだけでいい 比喩・倒置・反復・対句・体言止め 詩	・行動の描写をもとに人物像や人物の心情の変化を捉える。
		小説	トロツコ	・漢字の部首と成り立ちについて理解を深める。
		書写	書き初め	・文章の要旨を捉え筆者の考えに対して自分の考えをもつ。
				・指示する語句と接続する語句の役割について理解を深める。
				・日常生活を振り返って話題を選び、自分の考えが明確になるように構成を工夫する。
				・古典の世界への理解を深め、月と人々との関わりについて考える。
3	1	説明 言葉発見⑤ 書く	意味と意図 方言と共通語 意見文	・古典の仮名遣いやリズムに注意して音読し、古典の世界を感じ取る。
	2	小説	少年の日の思い出	・目的や意図に応じて、身のまわりから題材を取り上げて書く。
	3	話す・聞く・書く	グループ新聞	・訓読の仕方を知り、漢文調のリズムを意識して音読する。

教科名	数学	週時間数	4時間	学年	1年
使用教科書 副教材等	教科書 未来へひろがる数学Ⅰ（啓林館） 副教材 数学の学習ノート 1年（正進社） 新・計算の基礎練習帳（創育・吉野教育図書）				

数学科の 目標	・数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化した り、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ・数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし、統合的・発展的に 考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 ・数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態 度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。	
評価について		
観点	つきたい力	方法
知識・技能	・正の数と負の数、文字を用いた式と一元一次方程式、平面図 形と空間図形、比例と反比例、データの分布と確率などについ ての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。 ・事象を数理的に捉えたり、数学的に解釈したり、数学的に表現・ 処理したりする技能を身に付けている。	・ノート、計算練習のノート、 授業プリントの記述 ・授業中の発言、問題演習の 様子 ・授業や単元のふりかえり ・定期テスト、小テスト
思考・判断・表現	・数の範囲を拡張し、数の性質や計算について考察したり、文字 を用いて数量の関係や法則などを考察したりする力、図形の構 成要素や構成の仕方に着目し、図形の性質や関係を直感的に 捉え、論理的に考察する力、数量の変化や対応に着目して関数 関係を見いだし、その特徴を表、式、グラフなどで考察する力、 データの分布に着目し、その傾向を読み取り批判的に考察して 判断したり、不確定な事象の起こりやすさについて考察したりす る力を身に付けている。	・ノート、計算練習のノート、 授業プリントの記述 ・授業中の発言、問題演習の 様子 ・授業や単元のふりかえり ・定期テスト、小テスト
主体的に 学習に 取り組む 態度	・数学的活動の楽しさや数学のよさに気付いて粘り強く考え、数 学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返 って検討しようとしたり、多面的に捉え考えようとしたりしている。	・ノート、計算練習のノート、 授業プリントの記述 ・授業中の発言、問題演習の 様子 ・授業や単元のふりかえり ・宿題、ワークなどの提出物 ・定期テスト
学習方法	・最も大切なことは、授業に集中し、先生の話をしっかり聞くこと。授業中、分からなかった問題は質 問し、できるだけ早く理解し、解決しておく。 ・授業中の問題演習に挑戦し、答え合わせの時には積極的に挙手して発表できるとよい。 発表の時には、根拠やそうなる理由をしっかりと述べるのが大切である。解き方だけを求めるので はなく、なぜそうなるのかを考えることで数学が楽しくなり、理解が深まる。 ・その日に学習した内容や問題を家庭で復習する。まずはノートにまとめた用語や公式を押さえる。そ して、学校で使用しているワークを使い、学校で学習したところの問題を解く。解き方が分からない 場合は、教科書や授業のノート、ワークの解答・解説で確認する。それでも分からない場合は、友達 や教師に質問し、理解できるまで学習を進める。これらの学習を繰り返し行う。 ・学校で使用しているワークの問題が理解できるようになったら、新たな問題集にもチャレンジする。	

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	オリエンテーション		
	5	1章 正の数・負の数	1. 正の数・負の数 2. 正の数・負の数の計算 3. 正の数・負の数の利用	・正の数と負の数の必要性和意味を理解する。 ・正の数と負の数の四則計算をすることができる。 ・具体的な場面で正の数と負の数を用いて表したり処理したりすることができる。
	6	2章 文字の式	1. 文字を使った式 2. 文字式の計算	・文字を用いることの必要性和意味を理解する。 ・文字を用いた式における乗法と除法の表し方を知る。 ・簡単な一次式の加法と減法の計算をすることができる。
	7			・数量の関係や法則などを文字を用いた式に表すことができることを理解し、式を用いて表したり読み取ったりすることができる。
2	9	3章 方程式	1. 方程式 2. 方程式の利用	・方程式の必要性和意味及び方程式の中の文字や解の意味を理解する。 ・等式の性質を基にして、一元一次方程式を解く方法を考察し、表現することができる。 ・簡単な一元一次方程式を解くことができる。 ・一元一次方程式を具体的な場面で活用することができる。
	10	4章 変化と対応	1. 関数 2. 比例 3. 反比例	・関数関係の意味、比例・反比例について、座標の意味を理解する。 ・比例・反比例を表、式、グラフなどに表し、それらの変化や対応の特徴を見いだすことができる。 ・比例・反比例を用いて具体的な事象を捉え、考察し、表現することができる。
	11		4. 比例、反比例の利用	
	12	5章 平面図形	1. 直線と図形 2. 移動と作図 3. 円とおうぎ形	・角の二等分線、線分の垂直二等分線、垂線などの基本的な作図の方法を理解する。 ・平行移動、対称移動、及び回転移動について理解する。 ・基本的な作図や図形の移動を具体的な場面で活用することができる。 ・おうぎ形の弧の長さや面積を求めることができる。
3	1	6章 空間図形	1. 立体と空間図形 2. 立体の体積と表面積	・空間における直線や平面の位置関係を知ることができる。 ・柱体や錐体、球の表面積と体積を求めることができる。
	2			
	3	7章 データの活用	1. ヒストグラムと相対度数 2. データにもとづく確率	・ヒストグラムや相対度数などの必要性和意味を理解する。 ・データを表やグラフに整理し、データの分布の傾向を読み取ることができる。 ・多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性和意味を理解し、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り、表現することができる。

教科名	社会	週時間数	3 時間	学年	I 年
使用教科書 副教材等	教科書 中学生の地理（帝国書院） 新しい社会歴史（東京書籍） 中学校社会科地図（帝国書院）				

社会科 の目標	・我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解する。 ・調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ・社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する。 ・課題の解決に向けて選択・判断し、説明したりすることを基に議論などをする力を養う。 ・よりよい社会の実現させるために、課題を主体的に解決しようとする態度を養う。 ・国民主権を担う公民として、自国の平和と繁栄を図り、他国や他国の文化を尊重する。	
評価について		
観点	つけたい力	方法
知識・技能	【地理的分野】 日本や世界の様々な地域の特徴や課題などの様子についての理解。グラフや表などの資料を読み取る力。考えたりまとめたりするための知識及びそれらをまとめて伝える技能。 【歴史的分野】 世界の歴史を背景にした日本の歴史の大きな流れや、各時代の特色についての理解。資料から歴史に関する様々な情報を読み取る力。考えたりまとめたりするための知識及びそれらをまとめて伝える技能。	・単元テスト ・定期テスト ・確認テスト
思考・判断・表現	【地理的分野】 地理に関する事象について、人々の生活環境や自然環境、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、思考・判断したりする力。 【歴史的分野】 歴史に関する事象について、人々の生活、現在とのつながり、伝統・文化の特色などに着目して、多面的・多角的に考察したり、思考・判断したりする力。	・授業の振り返り ・単元の振り返り ・単元テスト ・定期テスト ・確認テスト
学習に主体的に取り組む態度	【地理的分野】 世界や日本の社会の担い手の一人であることを認識し、よりよい社会の実現のために地理的事象から課題を見出し、主体的に解決しようとする態度。 【歴史的分野】 国家や社会の担い手の一人であることを認識し、よりよい社会の実現のために歴史的事象から課題を見出し、主体的に解決しようとする態度。	・授業の振り返り ・単元の振り返り ・単元テスト・定期テスト ・確認テスト ・ワーク、ノートなどの提出物 ・授業に取り組む様子
学習方法	・授業では教師の話をしっかり聞き、分からないことなどは質問するなど、積極的に取り組む。 ・少なくとも、黒板に書かれたことは、ノートに写すようにする。 ・学習内容の理解が進むように、ノートの取り方を工夫する。 ・振り返りは、めあてを意識して、理解できたことなどを読む人に伝えるように書く。 ・学習した内容は、ワークなどを利用して定着するまで復習する。 ・単元テストやワークなどで、できなかったところはできるようにする。分からないところは、教師に聞くなどして、分かるようにする。	

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	【地理的分野】 世界の姿	地図の読み方。 世界の国々の位置の表し方。	地図帳を活用し、地図を読むことができる。
	5	日本の姿	日本の位置や領域	日本の領域について理解することができる。
		人々の生活と環境	世界の人々の生活と自然環境とのかかわりについて	雨温図を読み取ることができる。 教科書の写真や文章から、各気候区の人々の生活について読み取ることができる。
		アジア州	アジア州の様子 アジア州の急速な経済発展について	アジア州の様子について理解することができる。 アジア州の発展の裏にある、環境や生活の課題について考え、自分の意見を持つことができる。
	7	ヨーロッパ州	ヨーロッパ州の様子 国どうしの結びつきによる影響について	ヨーロッパ州の様子について理解することができる。 EU の利点や課題について考え、自分の意見を持つことができる。
2	9	アフリカ州	アフリカ州の様子 特定の産物に依存する経済について	アフリカ州の様子について理解することができる。 モノカルチャー経済について理解し、それらを改善していく方法について考え、自分の意見を持つことができる。
	10	北アメリカ州	北アメリカ州の様子 アメリカ合衆国の巨大産業について	北アメリカ州の様子について理解することができる。 アメリカ合衆国の車社会や大量消費の問題について考え、自分の意見を持つことができる。
		南アメリカ州	南アメリカ州の様子 農協業の発展と森林開発について	南アメリカ州の様子について理解することができる。 アマゾンの開発とブラジルの経済発展について考え、自分の意見を持つことができる。
		オセアニア州	オセアニア州の様子 他地域との関係の変化について	オセアニアの州の様子について理解することができる。 オセアニア州の国々の主な貿易相手国が変化してきた理由について考え、自分の意見を持つことができる。
	11	【歴史的分野】 歴史をとらえる見方・考え方	歴史の学び方	歴史を学ぶにあたって、時代や年代の見方などを理解することができる。
		世界の文明と宗教のおこり	世界の古代文明や宗教のおこり	世界の文明の共通点や相違点について、理解することができる。
	12	日本列島の誕生と大陸との交流	縄文時代・弥生時代・古墳時代の日本 大陸との関わり	大陸の歴史文書などから、当時の日本の様子を読み取り、理解することができる。
3	1	古代国家の歩みと東アジア世界	飛鳥時代・奈良時代・平安時代の日本 律令制の確立と崩壊	律令制度を整えていく過程と律令制が崩れていく要因について理解することができる。
	2	武士政権の成立	平安時代・鎌倉時代の日本 武士の成長	平家政権の盛衰や鎌倉幕府の成立を通して、武士の政権が確立していく過程を理解する。
	3	ユーラシアの動きと武士政治の展開	鎌倉時代・室町時代の日本 中国との関わり	鎌倉幕府や室町幕府の政策が、東アジアの情勢とかわりがあることを理解する。
		ヨーロッパ人との出会いと全国統一	ヨーロッパの世界進出 戦国時代の政治	戦国時代を変えたキリスト教や鉄砲が日本にもたらされた経緯について、ヨーロッパの情勢から理解することができる。

教科名	英語	週時間数	4 時間	学年	1 年
使用教科書 副教材等	教科書 NEW HORIZON 東京書籍 副教材 Joyful Work Book 新学社 / わくわくWriting 教育同人社				

英語科 の目標	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用することができる。 ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝えあったりすることができる。 ・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとすることができる。	
評価について		
観点	つきたい力	方法
知識・技能	・外国語の4技能（聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと）について、実際のコミュニケーションで活用できる知識や技能を身に着けている。 ・学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。	・授業中の活動の様子 ・ペアワークやグループワーク等の様子 ・単語、文法等授業中の課題 ・定期テスト、単元テスト、小テスト ・リスニング、長文読解等課題 ・パフォーマンステスト
思考・判断・表現	・具体的で身近な話題について、互いの考えや気持ちなどを適切に伝え合うことができる。 ・聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えを話したり書いたりして表現できる。	・授業中の活動の様子 ・ペアワークやグループワーク等の様子 ・定期テスト、単元テスト ・パフォーマンステスト
主体的に 学習に取り組む 態度	・他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。 ・言語やその背景にある文化に対する関心を持って、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	・授業中の態度や活動の様子 ・ペアワークやグループワーク等の様子 ・パフォーマンステスト ・ワーク、ノート、プリント、タブレット、振り返りシート等提出物
学習方法	《学校では》 ・英語は習った表現をどんどん使おう。間違いを怖れずに積極的に発言しよう。 《家庭では》 ・教科書の英文は何度も音読しよう。1年生の英語は丸覚えするぐらいの気持ちで取り組もう。 ・英語の歌やラジオ、TV、映画等を積極的に視聴し英語に触れる機会を増やそう。 ・英語は、繰り返し学習が大切です。短時間でもいいので必ず毎日復習しよう。習った単語や文は、何度も見たり、言ったり、書いたりして覚えるまで復習しよう。 ・宿題は出された日にやる習慣をつけよう。 《定期テストでは》 ・特に試験範囲中の単語や基本文は、何度も繰り返し学習しよう。授業で使ったプリント等も、しっかり見直しておこう。	

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	<Unit0>	・小学校で学習した内容の復習 ・アルファベット ・あいさつ・身のまわりの英語	・小学校で習った英語表現を使ってクラスメートと話したり、先生の指示に合わせて動くことができる。 ・アルファベットの名前と音、読み方のちがいを理解することができる。
	5	<Unit1>	・自己紹介 (be 動詞、一般動詞、can の文)	・自分のことについて、今の気分や状態、好きな食べ物などについて話することができる。
	6	<Unit2>	・人や物を紹介する ・人や物について尋ねる ・Who is～? What is～? ・手段や行動について尋ねる文とその応答	・相手の出身地や好きなスポーツについて、たずねたり答えたりすることができる。
	7	<Unit3>	・When～?/Where～?とその応答 ・将来の夢や職業 I want to～. ・How many～?とその応答	・すでに話題になった人やものについて紹介したり、たずねたりすることができる。
				・知らない人やものについてたずねたり、答えたりすることができる。
2	9	<Unit4>	・命令文 ・What time～?とその応答 ・What+名詞～?とその応答 ・疑問詞用いた文の形とその用法	・相手に指示や助言をすることができる。
	10	<Unit5>	・前置詞 ・like 【enjoy】 doing be good at doing ・過去形 ・自己紹介ポスターを書こう。	・時刻をたずねたり、答えたりすることができる。
	11	<Unit6> ・Let's Talk1 ・辞書の使い方	・3人称単数現在形(肯定・疑問・否定) ・お願い	・何が好きかをたずねたり、答えたりすることができる。
	12	<Unit7>	・人称代名詞(目的格) ・Which～, A or B? ・Whose～?とその応答 ・What's wrong?	・場面や状況に応じて、質問したり答えたりすることができる。
		<Unit8> ・Let's Listen1 ・Let's Write1	・留学生のプロフィール ・現在進行形(肯定・疑問・否定) ・感嘆文 What～!/How～! ・お祝い(グリーティングカード)	・ものや人の位置を説明することができる。
3	1	<Unit9>	・不定詞【名詞的用法】 (肯定・疑問・否定) ・look+形容詞 ・道案内での会話表現 ・欠席した友達への電話連絡 ・My Hero	・好きなことや楽しんでいること、得意なことを伝えることができる。
	2	<Unit10>	・一般動詞の過去形(規則動詞) ・一般動詞の過去形(不規則) ・一般動詞の過去形(疑問・否定) ・旅先からの便り～絵はがき～	・思い出や過去の体験について話することができる。
	3	<Unit11>	・be 動詞の過去形 ・There is/are～. ・過去進行形 ・レストランでの注文の仕方 ・ラジオ DJ のトーク ・My Favorite Event This Year	・自分のことについて、つながりのある文章を書くことができる。
				・家族や友人について場面や状況に合う文を作ることができる。
				・身近な人に許可を求めたり、依頼することができる。
3	1	<Unit9>	・不定詞【名詞的用法】 (肯定・疑問・否定) ・look+形容詞 ・道案内での会話表現 ・欠席した友達への電話連絡 ・My Hero	・自分と相手以外の人について話することができる。
	2	<Unit10>	・一般動詞の過去形(規則動詞) ・一般動詞の過去形(不規則) ・一般動詞の過去形(疑問・否定) ・旅先からの便り～絵はがき～	・「どれ」「どちら」と質問したり、答えたりすることができる。
	3	<Unit11>	・be 動詞の過去形 ・There is/are～. ・過去進行形 ・レストランでの注文の仕方 ・ラジオ DJ のトーク ・My Favorite Event This Year	・持ち主をたずねたり、誰のものを伝えることができる。
				・相手の体調についてたずねたり、自分の体の不調について説明することができる。
				・人に関する紹介を聞いて、主な内容を理解することができる。
3	1	<Unit9>	・不定詞【名詞的用法】 (肯定・疑問・否定) ・look+形容詞 ・道案内での会話表現 ・欠席した友達への電話連絡 ・My Hero	・今していることを説明したり、たずねたりすることができる。
	2	<Unit10>	・一般動詞の過去形(規則動詞) ・一般動詞の過去形(不規則) ・一般動詞の過去形(疑問・否定) ・旅先からの便り～絵はがき～	・感動をあらわす表現ができる。
	3	<Unit11>	・be 動詞の過去形 ・There is/are～. ・過去進行形 ・レストランでの注文の仕方 ・ラジオ DJ のトーク ・My Favorite Event This Year	・目的に合わせたカードを書くことができる。
				・行きたい国やそこでしたいことについて、尋ねたり答えたりすることができる。
				・人やものの外見について説明することができる。
3	1	<Unit9>	・不定詞【名詞的用法】 (肯定・疑問・否定) ・look+形容詞 ・道案内での会話表現 ・欠席した友達への電話連絡 ・My Hero	・徒歩での道順をたずねたり、教えたりすることができる。
	2	<Unit10>	・一般動詞の過去形(規則動詞) ・一般動詞の過去形(不規則) ・一般動詞の過去形(疑問・否定) ・旅先からの便り～絵はがき～	・友達にあとで伝えるべき情報を聞き取ることができる。
	3	<Unit11>	・be 動詞の過去形 ・There is/are～. ・過去進行形 ・レストランでの注文の仕方 ・ラジオ DJ のトーク ・My Favorite Event This Year	・好きな有名人やあこがれの人についてたずねたり、説明したりすることができる。
				・図や表を見て、書き手の考えを読み取ることができる。
				・過去の出来事について説明したり、たずねたりすることができる。
3	1	<Unit9>	・不定詞【名詞的用法】 (肯定・疑問・否定) ・look+形容詞 ・道案内での会話表現 ・欠席した友達への電話連絡 ・My Hero	・いろいろな動詞を使って、過去にしたことを説明することができる。
	2	<Unit10>	・一般動詞の過去形(規則動詞) ・一般動詞の過去形(不規則) ・一般動詞の過去形(疑問・否定) ・旅先からの便り～絵はがき～	・旅先から絵はがきを書くことができる。
	3	<Unit11>	・be 動詞の過去形 ・There is/are～. ・過去進行形 ・レストランでの注文の仕方 ・ラジオ DJ のトーク ・My Favorite Event This Year	・過去の様子や状態について説明することができる。
				・「(場所に)～がある」と説明したり、たずねたりすることができる。
				・過去のある時点の動作を説明することができる。
3	1	<Unit9>	・不定詞【名詞的用法】 (肯定・疑問・否定) ・look+形容詞 ・道案内での会話表現 ・欠席した友達への電話連絡 ・My Hero	・レストランなどで、注文をしたり質問に答えたりすることができる。
	2	<Unit10>	・一般動詞の過去形(規則動詞) ・一般動詞の過去形(不規則) ・一般動詞の過去形(疑問・否定) ・旅先からの便り～絵はがき～	・日常的な話を聞いて、主な内容を聞き取ることができる。
	3	<Unit11>	・be 動詞の過去形 ・There is/are～. ・過去進行形 ・レストランでの注文の仕方 ・ラジオ DJ のトーク ・My Favorite Event This Year	・思い出に残った学校行事について発表することができる。
				・物語を聞いて、あらすじを理解することができる。
				・物語の場面や登場人物の心情などを理解することができる。

教科名	理科	週時間数	4 時間	学年	I 年
使用教科書 副教材等	教科書 「未来へひろがるサイエンス I」 啓林館 副教材 「理科の自主学習」 新学社 「グラフィック理科資料集」 新学社 「カラープリント 確認から発展へ」				

理科 の目標	・自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 ・自然の事物・現象について、自然に対する関心を高め、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行う。 ・自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究するために必要な資質・能力・態度を養う。	
評価について		
観点	つきたい力	方法
知識・技能	身近な自然現象を日常生活や社会と関連付けながら自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの 基本的な技能を身に付けている。	・単元（評価）テスト ・定期テスト ・実技、作図テスト ・実験・観察の技能 ・授業プリント、振り返りの記述
思考・判断・表現	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、規則性や関係性を見だし、表現するなど、科学的に探究している。	・単元（評価）テスト ・定期テスト ・実験・観察結果の考察 ・振り返り（問題づくり）の記述 ・授業のようす
主体的に 学習に 取り組む 態度	自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもって振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	・ノート、授業プリントの記述 ・ワークの取組状況 ・振り返り（問題づくり）の記述 ・授業のようす
学習 方法	・学習した内容で疑問に思ったことや興味をもったことは、自分で調べてみましょう。 ・継続的な学習ができるように、自分で計画を立てて実行できるようにしましょう。 ・学校で学んだことを理科の自主学習や授業プリントで復習をすることで、確かな力にしましょう。 ・授業の中で出てきた重要語句で、理解できなかった部分は、教科書や資料集を活用しながら、知識として定着できるようにしよう ・授業の『めあて』や『ふり返り』を意識しながら、積極的に学習活動へ参加しましょう。 ・グループ活動には積極的に参加し、なかまの意見を聞いて自分の考えを深めましょう。 ・観察や実験では、目的や意図を考えながら取り組み、結果をわかりやすくまとめ、何がわかったかを自分の言葉で表現しましょう。 ・仲間の考えを尊重しあい、仲間の意見と自分の意見を比較して、科学的な見方や考え方を高めよう。	

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	オリエンテーション	自然観察のポイント	・ ルーペ・顕微鏡を使って、観察することができる。
	5	自然の中にあふれる生命	身のまわりの生物の観察	・ 植物の花・葉・根のつくりを判別できる。
		いろいろな生物とその共通点	生物のなかま分けのしかた	・ 植物を分類することができる。
			いろいろな生物とその共通点	・ 動物を分類することができる。 （背骨のある動物、ない動物）
		植物の特徴と分類		
	動物と特徴の分類			
	6			・ ガスバーナーを使うことができる。
7	身のまわりの物質	いろいろな物質とその性質	・ 物質を分類することができる。 ・ 密度を求めることができる。	
	2	9	いろいろな気体とその性質	・ 酸素・二酸化炭素・窒素・水素・アンモニアの性質を説明できる。
10		水溶液の性質	・ 水溶液の濃度を計算で求めることができる。	
		物質のすがたとその変化	・ 溶解度曲線を読みとることができる。	
			状態変化における温度と体積の関係を説明できる。	
		蒸留の実験を行うことができる。		
光・音・力による現象		光による現象	・ 光の進み方を説明できる。 ・ 凸レンズのはたらきを説明できる。	
		11	音による現象	・ 音が伝わるしくみを説明できる。
12	力による現象	・ 力の種類を判別し、力を矢印で表すことができる。 ・ フックの法則の実験を行うことができる。		
	3	1	活きている地球	・ 身近な地形の観察から大地の成り立ちや観察器具の使い方を理解できる。
		2	地震～ゆれる大地～	・ 地震が発生するしくみを説明できる。 ・ 地震発生時刻などを計算して求められる。
			火山～火を噴く大地～	・ 火山のでき方と特徴を説明できる。 ・ 火成岩を分類することができる。
3		地層～語る大地～	・ 地層のでき方を説明できる。 ・ 堆積岩を分類することができる。	
	1年のまとめ	・ 地層から年代や環境を推定することができる。		

教科名	保健体育	週時間数	3 時間	学年	I 年
使用教科書 副教材等	教科書「中学保健体育」Gakken 副教材「中学保健学習ノート」正進社				

保健体育科の目標	・ 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。 ・ 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 ・ 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。	
評価について		
観点	つけたい力	方法
知識・技能	【体育分野】 各運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、伝統的な考え方、各領域に関連して高まる体力、健康・安全の留意点についての具体的な方法及び運動やスポーツの多様性、運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方についての考え方を理解しているとともに、各領域の運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けることができる。 【保健分野】 健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、個人生活を中心として科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けることができる。	・ 定期テスト ・ 実技テスト ・ 学習カード
思考・判断・表現	【体育分野】 各運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、伝統的な考え方、各領域に関連して高まる体力、健康・安全の留意点についての具体的な方法及び運動やスポーツの多様性、運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方についての考え方を理解しているとともに、各領域の運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けることができる。 【保健分野】 健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えることができる。	・ 定期テスト ・ 学習カード ・ 観察
主体的に学習に取り組む態度	【体育分野】 運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任、共生などに対する意欲をもち、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組むことができる。 【保健分野】 健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組むことができる。	・ 定期テスト ・ 実技テスト ・ 学習カード ・ 観察
学習方法	・ 準備運動では集団行動をキビキビおこない発声も大切にできる。列を揃え、背筋を伸ばしランニングをする。また、ストレッチ体操では元気よく発声し、ポイントを理解して取り組む。 ・ 普段の授業では、めあてを理解し取り組むことかできる。また、ふりかえりではめあてに対して自分の考えを学習カードに記述する。 ・ 実技テストでは、課題に応じて自分の力を発揮する。 ・ 定期テスト前には、保健分野・体育分野ともに復習する習慣をつける。 ・ 毎回の授業で、意欲をもって保健体育に親しむように心がける。	

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	○体育理論	・オリエンテーション	・運動やスポーツは、多様な必要性や楽しみがあることを理解することができる。
		○体づくり運動	・集団行動 ・新体力テスト	・集団としての活動の進め方や動きを理解することができる。
	5	○球技	・バレーボール	・今の自分の体力の実態を知り、課題を見つけ、体力を高めるための運動や練習の仕方を考えることができる。
	6 7	○陸上競技 ●食育 ●健康な生活と病気の予防①	・短距離走（リレー） ・走り幅跳び ・食育 ・健康の成り立ち 運動と健康 食生活と健康 休養・睡眠と健康 調和のとれた生活	・自分や集団に適した課題を見つけ、解決に向けて、仲間と協力し技能を習得し、仲間と連携した動きで攻防ができる。 ・フェアプレイを守ろうとしたり、分担した役割を果たそうとしたりすることができる。 ・自分に適した課題を見つけ、解決に向けて練習を工夫して行い、技能の習得・向上、記録の向上を目指す。 ・「食」に関する知識を身につけ、選択する力を養うことができる。 ・病気や健康にはどんなことが関わっているか理解できる。 ・健康のためには食生活でどんなことに気を付ける必要があるか理解できる。 ・健康のためには休養・睡眠をどのようにとればよいか理解することができる。
2	9	○体づくり運動	・体づくり運動	・自分に適した課題を見つけ、解決に向けて練習を工夫して行い、技能の習得・向上を目指す。
	10	○武道	・剣道	・積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を習得することができる。
	11	○器械運動	・マット運動	・積極的に取り組むとともに、よい演技を認めようとするところができる。
	12	○陸上競技 ●食育 ●心身の発達と心の健康	・持久走 ・食育 ・体の発育・発達 ・呼吸器・循環器の発達 ・生殖機能の成熟 ・性とどう向き合うか	・自分に適した目標を設定し、自分に合ったペースを守り一定の距離を走ることができる。 ・「食」に関する知識を身につけ、選択する力を養うことができる。 ・体の各器官はどのように発育・発達するのか理解することができる。 ・呼吸器や循環器はどのように発達するのか理解することができる。 ・思春期の体の変化や生殖機能の成熟について理解することができる。 ・思春期の性意識の変化や、性情報に対する適切な行動を考え理解することができる。
3	1	○ダンス	・現代的なリズムのダンス	・リズムの特徴をとらえ、音楽に合わせてステップや動きを組み合わせて、みんなでリズムに乗って全身で踊る楽しさや喜びを味わうことができる。
		○球技	・バスケットボール	・自分や集団に適した課題を見つけ、解決に向けて、仲間と協力し技能を習得し、仲間と連携した動きで攻防ができる。
	2	●食育 ●心身の発達と心の健康	・食育 ・心の発達（１）（２）	・フェアプレイを守ろうとしたり、分担した役割を果たしたりする。 ・「食」に関する知識を身につけ、選択する力を養うことができる。 ・知的機能・情意機能・社会性の発達の様子を、理解することができる。
	3	●スポーツの多様性	・自己形成 ・欲求不満やストレスへの対処 ・スポーツの始まりと発展 ・スポーツへの多様な関わり方 ・スポーツの多様な楽しみ方	・自分自身を見つめ、自己形成に向けて、生き方を考え理解することができる。 ・心と体の関わりについて、考え理解することができる。 ・欲求・欲求不満・ストレスへ対処する方法について、考え理解することができる。 ・スポーツはどのようにして始まり、どのように発展してきたのか理解できる。 ・スポーツへの関わり方にはどんなものがあるか理解できる。 ・スポーツには、様々な楽しみ方や楽しむための工夫があることについて理解できる。

教科名	音楽	週時間数	1.3 時間	学年	I 年
使用教科書 副教材等	教科書 中学生の音楽 I (教育芸術社) 副教材 中学生の器楽 (教育芸術社)				

音楽科 の目標	・曲想と音楽の構造などとの関わりおよび音楽の多様性について理解するとともに創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。 ・音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。 ・主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。	
評価について		
観点	つけない力	方法
知識・技能	曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。	・筆記テスト ・実技テスト ・鑑賞
思考・判断・表現	音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。	・筆記テストでの文章問題 ・実技テストでの創意工夫点 ・ふりかえり
主体的に学習に取り組む態度	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。	・ふりかえり ・授業における学習態度 ・実技テスト ・筆記テスト
学習方法	・歌唱活動では、まずは自信をもって歌えるようになろう。その後、周りの音を聞いて音楽を楽しめるようになろう。 ・実技テストでは、大きな声で歌ってみよう。また、創意工夫したり、強弱記号をつけたりして歌えるようになろう。 ・授業でのワークシートを積極的に取り組もう。また、筆記テスト前に復習する習慣をつけよう。 ・鑑賞では、言葉で説明したり、根拠をもって説明したりして取り組むようになろう。 ・毎回のふりかえりの中では、めあてに対して自分の思いを書けるように意識しよう。 ・毎回の授業で、意欲をもって音楽を楽しむように心がけよう。	

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	歌唱活動	オリエンテーション 「We'll Find the Way～はるかな道へ」 「主人は冷たい土の中に」	・美しい歌声で歌うための姿勢をとることができる。 ・曲の雰囲気合った明るい声で歌うことができる。 ・曲の構成を感じとることができる。 ・曲に合った強弱を意識して歌うことができる。
	5	楽典	「音名」 「白鍵と黒鍵」	・ト音記号とヘ音記号上の音名を読めることができる。 ・白鍵と黒鍵の特性を理解することができる。
		歌唱活動	「校歌」 「浜辺の歌」	・自身をもって堂々と歌うことができる。 ・曲の情景を浮かべながら歌うことができる。
	6	鑑賞	「魔王」	・音色やイメージを感じながら鑑賞することができる。
		実技テスト	「主人は冷たい土の中に」	・音程を取って歌うことができる。 ・曲に合った強弱・構成などを理解して表現することができる。
		筆記テスト	期末テスト	
	7	歌唱活動	「明日という日が」	・合唱の響きを感じ合いながら歌うことができる。
2	9	歌唱活動	「明日という日が」 文化祭に向けて	・自身をもって歌うことができる。 ・曲に合った強弱を意識して歌うことができる。 ・休符や音符の長さを意識して歌うことができる。 ・他のパートとの響きを味わって歌うことができる。 ・歌詞に合った表現を考えて歌うことができる。 ・よりよい合唱にするために自分の意見を他の人に共有することができる。
	10			
			「赤とんぼ」	・曲の情景を浮かべながら歌うことができる。
	11	鑑賞	「日本の民謡」	・日本特有の音楽を味わって鑑賞することができる。
		実技テスト	「明日という日が」	・音程を取って歌うことができる。 ・曲に合った強弱・構成などを理解して表現することができる。
	12	筆記テスト	期末テスト	
		楽典	「拍子」	・4分の4拍子を理解することができる。
3		歌唱活動	「卒業式の練習」	・合唱の響きを感じ合いながら歌うことができる。 ・別れの思いを込めて歌うことができる。
			「エーデルワイス」	・英語の曲の特徴を理解して歌うことができる。
	2	鑑賞	「木管楽器」 「金管楽器」 「打楽器」	・木管楽器の音や楽器の特徴を見つけることができる。 ・金管楽器の音や楽器の特徴を見つけることができる。 ・打楽器の音や楽器の特徴を見つけることができる。
		筆記テスト	期末テスト	
	3	実技活動	「クラIPPINGラブソディ」	・音の重なりを感じながら合奏することができる。

教科名	技術	週時間数	1 時間	学年	1 年
使用教科書 副教材等	教科書「NEW 技術・家庭 技術分野 明日を創造する」教育図書 副教材「NEW 技術・家庭 技術分野 ワークノート」教育図書				

技術科 の目標	・生活や産業の中で技術の果たしている役割について考え、環境・エネルギー・資源との関係について知る。 ・製品の設計について、機能・構造・材料について考えることができ、構想の表示方法を知り製作に必要な図をかくことができる。 ・製作に使用する工具や機械の使用法及び、製作品の部品加工及び組み立て、仕上げができること。 ・コンピュータの構成と機能に関心を持ち、操作に意欲的に取り組めること。	
評価について		
観点	つきたい力	方法
知識・技能	生活と技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	・実技テスト ・定期テスト
思考・判断・表現	生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・授業プリントの記述 ・授業の振り返り ・定期テスト ・実技テスト
主体的に 学習に取り組む 態度	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	・授業の振り返り ・授業態度 ・定期テスト ・実技テスト ・ワーク、プリントなどの提出物
学習方法	・積極的に制作に取り組み、自分を表現しよう。 ・自ら考え、仲間の意見をよく聞き、考えを深めることを心がけよう。 ・作業の準備、後片づけがしっかりできるようにしよう。 ・授業中は私語を慎み根気よく制作に集中しよう。 ・提出物は、期日を守って必ず提出しよう。 ・実技テストは、授業内で言った注意点やポイントを意識して行うようにしよう。 ・定期テストで点が取れるようにワーク、配布プリントは何度もやり直そう。	

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	材料と加工の技術	それぞれの材料の特徴を理解する。 加工の技術について知る。 ものを設計する時に気を付けることを理解する 製品の構想を、図に表す	・木材・金属・プラスチックの特徴を理解する。 ・使用目的、使用条件を整理しながら構想方法を知る。 ・じょうぶな構造がわかる。 ・立体図の書き方を知り、書くことができる。 ・寸法の記入方法がわかる。 ・製作に必要な部品を考え、むだなく材料取りができる。 ・製作工程を理解し、作業の流れを把握できる。
	5			
	6			
	7			
2	9	材料と加工の技術	木製品の制作 けがき 部品の加工、組み立て、塗装をする	・使用材料ごとのけがき方と使用工具を知る。 ・切りしろやけずりしろを見こんで、仕上がり寸法線と切断線をけがく。 ・さしがねの使用方法を理解する。 ・工具と切断のしくみを理解することができる。 ・材料を安全に、正確に切断線に従って切断できる。 ・材料ごとの部品加工法を理解できる。 ・寸法線にしたがって図面どおりに加工できる。 ・図面どおりに加工できたか検査し、修正できる。
	10			
	11			
	12			
3	1	材料と加工の技術	組み立て	・仮組み立てができ、正しい手順や方法で組み立てができる。 ・組み立てた製品の検査と修正ができる。
	2		製品の仕上げ	・製品の材質や使用目的にあった 仕上げ方法を調べ、素材や用途にあった塗装や表面処理ができる。
	3	情報の技術	コンピュータの構成を学ぶ	・コンピュータの構成機器を知る。

教科名	家庭	週時間数	1 時間	学年	1 年
使用教科書 副教材等	教科書 技術・家庭 家庭分野 教育図書 副教材 ハンドノート家庭分野 正進社				

家庭科 の目標	・作品を制作したり、調理実習などの体験的な活動を通して、生活の自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識と技術を習得する。 ・生活を工夫し、創造する能力を身につける。	
評価について		
観点	つきたい力	方法
知識・技能	生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技術を身に付けるようにする。	・定期テスト ・授業プリントやノートの記述 ・授業中の発言、観察 ・調理実習や裁縫等の実技
思考・判断・表現	生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、問題を解決する力を養う。	・ノート、授業プリントの記述 ・授業中の発言、観察 ・ワークの記述（深めよう） （授業・単元のふりかえり） ・定期テスト
主体的に 学習に 取り組む 態度	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。	・授業中の発言、観察 ・プリント等の記述 ・ふりかえり
学習方法	・授業中は私語を慎み授業に集中し取り組もう。 ・ハンドノートを中心に学習しよう。 ・提出物は、期日を守って必ず提出しよう。 ・実技テストは、授業内で言った注意点やポイントを意識して行うようにしよう。 ・定期テストで点が取れるようにワーク、配布プリントは何度もやり直そう。	

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	健康と食生活 何をどれだけ食べた らよいか	食事の役割について考える	・健康と食事について考える。生活の中で、食事が果たす役割や、健康と食事とのかかわりについて知る。
	5		健康によい食習慣について考える	・健康に良い食習慣について考えることができる。
	6		栄養素の種類と働きを知る 中学生に必要な栄養について考える 食品に含まれる栄養素を調べる	・自分の食生活を振り返り課題を見つけることができる。 ・栄養素の種類と働きが分かる。 ・体の成長や活発な活動と日本人の食事摂取基準とのつながりを知る。
	7		1日に必要な食品の種類や概量を知る 1日分の献立を考える	・食品成分表で、食品に含まれる栄養素などの量を調べる。 ・食品を6つの基礎食品群に分類することができる。 ・中学生の1日に必要な食品の種類や概量を理解する。 ・食品群別摂取量の目安と一日に必要な食品の種類と概量がわかる。 ・中学生の1日分の献立を考えることができる。 ・1回の食事で食品群別摂取量のめやすの3分の1の量をとるようにする。
2	9	調理と食文化	食品の選択と購入について考える	・用途に応じた適切な食品の選択ができる。
	10		購入した食品を適切に保存をする	・食品の適切な保存方法を理解する。 ・食中毒の原因を理解し、予防について考えることができる。
	11		調理の基礎を知る 調理実習	・食品の品質を、見た目や表示などから見分けることができる。 ・安全と衛生に気を付けて、適切な火加減で調理することができる。 ・食材や調理器具を安全で衛生的に取り扱うことができる。
	12		肉・魚・野菜の調理する	・日常食の調理の計画を立てることができる。 ・肉、魚、野菜の種類や特徴を理解する。 ・肉、魚、野菜の調理上の特徴が分かる。
3	1	消費者の権利と責任	地域の食文化を知る	・自分の住む地域でとれる食材や地域の食文化について知る。
	2		和食の調理を知る	・地域で取れた食材を利用することの意味を考える。 ・だしの基本的な材料と、だしのとり方を理解する。⑩
	3		買い物をつり返る 買い物の法的な意味を考える	・地域または季節の食材を用いた和食の調理をすることができる。 ・消費者としての自覚を持つ。 ・意思決定のプロセスにそって、商品購入を管変えることができる。 ・契約とは何かを理解する。 ・契約によって発生する権利と義務を理解する。

教科名	美術	週時間数	1.3 時間	学年	I 年
使用教科書 副教材等	教科書「美術 I」 光村図書 副教材 「美術資料」 秀学社				

美術科 の目標	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて表現方法を工夫して表すことができるようにする。 ・自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、機能性と美しさとの調和、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。 ・楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。	
評価について		
※ 美術は、制作が長期間に渡るものがあり、各学期の成績は、題材の時間・内容などを考慮し、評価します。また、長期間に渡る題材の制作終了と、各学期の評価のタイミングが合わないため、学年末の成績は、単純に各学期の成績を平均したものとはなりません。1年間の学習活動を俯瞰し、題材の時間・内容・学習の深まりなどを考慮して、評価します。		
観点	つけない力	方法
知識・技能	感性や造形感覚などを働かせて、形や色彩などの表し方を身につけ、意図に応じて材料や用具を生かしたり、制作の順序などを考えたりし、創意工夫して表す力。	・作品、エスキース、アイディアスケッチ、及び振り返りプリントなどから、いかに自分の表現を追求しているかを読み取り評価する。 ・授業の様子を観察して、評価する。
思考・判断・表現	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に豊かに発想し、形や色彩の構成などを工夫し、心豊かな表現の構想を練る力。 感性や想像力を働かせて、造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わったり、生活を美しく豊かにする美術の働きや美術文化などについての理解や見方を広げたりする力。	・作品、エスキース、アイディアスケッチ、及び振り返りプリントなどから、アイディアをいかに構築しているかを読み取り、評価する。 ・鑑賞プリントから、自分の見方や感じ方を大切にして、いかに作品を味わっているかを読み取り評価する。 ・授業の様子を観察して、評価する。
主体的に学習に取り組む態度	美術の創造活動の喜びを味わい、表現や鑑賞の能力を身につけるために、主体的に学習に取り組もうとする力。	・作品、エスキース、アイディアスケッチ、鑑賞プリント、及び振り返りプリントから、取組の質を読み取り評価する。 ・授業の様子を観察して、評価する。
学習方法	・積極的に制作に取り組み、独自性を大切にしながら、こだわりをもって自分の表現を追求しよう。 ・チャーム着席、作業の準備、後片づけがしっかりできるようにしよう。 ・授業中は私語を慎み、根気よく制作に集中しよう。 ・制作に必要な資料や材料を準備し、制作に生かすことが出来るようにしよう。 ・芸術や美術に興味を持ち、芸術作品を見る機会を持とう。 ・提出物は、期日を守って必ず提出しよう。	

学期	月	単元	学習内容	主な学習のめあて
1	4	アートゲーム	アートかるた	・アートゲームを楽しみながら、美術作品の様々な見方を体験する。
			オリエンテーション	・美術の授業で学ぶことや準備すること、ルールなどについてしっかりと理解する
	5	構成	美術の自己紹介	・自分を美しく紹介することを楽しみ、喜びをもって積極的に表現する態度を育てる。 ・美意識を働かせながら自分の思いにあった表現の構想をする力を育てる。 ・自分なりの造形感覚を生かし、美しく創造的に表現する力を育てる。
	6	紙工芸	木のイメージ	・独創的なかたちをイメージすることの大切さ・おもしろさを感じとり、喜びをもって、切り絵の葉づくりの表現を楽しむ態度を育てる。 ・既成概念に流されずオリジナリティあふれるアイディアを出す力を育てる。
	7	太陽のイメージ1	アイディアスケッチ	・太陽のエネルギーや美しさなどを感じとったり想像したりすることを楽しみ、喜びをもって積極的に表現する態度を育てる。 ・短時間のアイディアスケッチを返し、たくさんのアイディアの種を撒く方法を身に着ける。
		ポスターの基礎	「夏休み課題ポスター」に向けて	・ポスターの基本的な彩色について理解する。 ・自分らしいポスターのアイディアの出し方を理解し、考える力を育てる。
2	9	太陽のイメージ1	エスキース (デザイン)	・太陽のエネルギーや美しさなどを感じとったり想像したりすることを楽しみ、喜びをもって積極的に表現する態度を育てる。 ・たくさんのアイディアの種を基に主題を決め、想像力を働かせて自分の思いにあった表現の構想をする力を育てる。 ・アイディアスケッチを基に、さまざまな技能や造形感覚を生かし、こだわりをもって美しく創造的に表現する力を育てる。
	10			
	11		水彩画	・太陽のエネルギーや美しさなどを感じとったり想像したりすることを楽しみ、喜びをもって積極的に表現する態度を育てる。 ・感じとったことなどを基に主題を決め、想像力を働かせて自分の思いにあった表現の構想をする力を育てる。
	12			・観察したことやイメージを基にスケッチなどを繰り返し、さまざまな技能や造形感覚を生かし、こだわりをもって美しく創造的に表現する力を育てる。
3	1	太陽のイメージ1	水彩画（2学期の続き）	（2学期の項に記した本題材のねらいを継続） ・自身の活動を的確に検証すると共に、自他の作品を鑑賞し、よさや美しさを感じとり味わう力を育てる。
	2	太陽のイメージ2	色見本帳づくり	・自分が表したい感じを鉛筆などのモノクロ素材でどのように表すかを工夫して描き、スケッチの基本技能を育てる。 ・対象から感じとったことや思いにあったイメージから感性豊かな発想をし、かたちや色・素材感などを工夫して、美しく独創的な表現の構想をする力を育てる。 ・自分だけの表現を生み出し、こだわりをもって追求することに積極的に取り組む力を育てる。
	3	アートゲーム	〇×クイズ	・美術作品や文化遺産としての絵画や彫刻などに親しみ、それらを理解すると共に、自分の味わい方を大切にして主体的に感じとったり、味わったりする力を育てる。 ・解答を考えながら、対象のよさや美しさなどを感じとったり想像したりすることを楽しみ、喜びをもって積極的に鑑賞する態度を育てる。